



The New Color of Money Safer. Smarter. More Secure.

www.moneyfactory.gov/newmoney

新しい色を使った最新紙幣 より安全に、より洗練され、そしてより安心に

新しい色を使用した最新紙幣は、より安全で、より洗練され、そしてより安心です。新しい紙幣は、偽造犯の一步先を行くための継続的な取り組みの一環として、また経済と米国通貨の利用者にとって貴重なお金を守る目的で発行されます。

- 今回の新10ドル紙幣は2006年3月2日に発行され、米国紙幣の新シリーズの最新紙幣です。新シリーズは、2003年10月9日に発行された20ドル紙幣から始まり、2004年9月28日には50ドル紙幣が発行されました。

通貨デザインの改善と積極的な法執行とを引き続き行うことで、米国通貨の信頼性は守られています。

- 広報活動、法の執行、強化された安全対策上の特徴および社会認識の向上により、米国通貨の偽造は低いレベルに抑えられてきました。最近の統計では、世界市場に出回っている偽の10ドル紙幣は、本物の10ドル紙幣10,000枚につき1枚未満と推定されています。¹

新しい通貨デザインは、テクノロジーの進歩によりデジタル技術による偽造がより簡単で安価にできるようになり増大傾向にあるデジタル偽造犯に対して一步先んじていくものです。

- 過去10年の間にデジタル機器の入手が容易となった結果、デジタル技術を使用して製造された偽札の数が増大しました。米国国内で摘発されたすべての偽造紙幣の中でデジタル技術を使用して製造された偽札は、1995年では1パーセント未満でしたが、2004年には約52パーセントにまで増大しました。²

従来と変わらないもの

価値：新旧どちらのデザインの紙幣でも、その額面どおりの価値があります。

¹ 連邦準備

² 米国秘密検察局



- **米国紙幣ならではの外観と感触**：新しい紙幣はアメリカの紙幣として世界中で受け入れられている外観と感触を有しています。新しい紙幣のサイズには変更がなく、同一の肖像画や歴史的な像が改善されて使用されます。
- **利用しやすい安全対策上の特徴**：一般消費者の方々も紙幣を確認することで、貴重なお金を保護することができます。1990年代に初めて導入されたこれらの特徴により、米国通貨の判別が簡単になります。
 - √ **カラーシフティング・インク**：紙幣表面の右下の隅にある数字をご覧ください。紙幣を上下に傾けると、カラーシフティング・インクの色が赤褐色から緑色に変わります。
 - √ **透かし**：紙幣を光にかざすと、肖像画によく似た透かしがご覧いただけます。透かしは紙の一部で、紙幣の両面から見えます。
 - √ **偽造防止糸**：紙幣を光に向けてかざし、紙に埋め込まれた、紙幣の片側に垂直に伸びる偽造防止糸（合成繊維の糸）を探してください。この糸は紙幣の両面から見えるもので、紫外線の下で光ります。

最も目につく違いは色です。

- 新10ドル紙幣は、オレンジ色、黄色および赤色の薄い背景色を特徴としています。
- 「We the People」という言葉が肖像画の右側の背景に赤色で印刷されています。さらに、紙幣の表面にある肖像の左側の背景と、紙幣の裏面にある飾り模様の右側に黄色で小さく書かれた、数字の10が印刷されています。
- 特に視覚障害者が各単位の紙幣を区別しやすいようにするため、額面金額ごとに異なった背景色が使用されています。
- 消費者の方が、色を利用して、紙幣が本物かどうかを見分けることは避けてください。
- 背景色が採用されたことで、紙幣の複雑さが増し、偽造が困難となっています。
- 紙幣の表面には、額面ごとに「自由の象徴」とも呼ばれる米国文化の図柄がそれぞれ印刷されています。10ドル紙幣の「自由の象徴」は、自由の女神のたいまつ図柄です。

ニューヨークのウォール街からイギリスのフリート街、オハイオ州リマからペルーのリマに至るまで、一般の方々にもこの「新しい色を使った最新紙幣」を認知していただくための大規模な啓蒙活動を展開中しています。

- 主要銀行の代表者は、新20ドル紙幣および新50ドル紙幣のスムーズな導入にあたり啓蒙活動の果した功績を認めています。³
- 安全対策のための特徴は、一般の方々の認識によってより効果的なものとなります。

³ Penn, Schoen & Berland Associates

- 認識を高めるために、米国政府は、世界中の方々に新しい10ドル紙幣の登場を告知し、安全対策のための特徴の理解を深めるとともに、その活用を推進する啓蒙活動に取り組んでいます。10ドル紙幣を最も頻繁に取り扱う小売や金融部門での現金取扱者や、報道機関を通じた一般の人々がその対象となっています。
- ATMや自動販売機の製造業者では、新しい10ドル紙幣が市場に出回る時までに機器の互換性を確保する作業を既に進行中です。小売業界で急速に普及しつつあるセルフサービス式レジの製造業者もその対象に加えました。